

ス式海岸の地形に住んで、豊予海峡と豊後

水道をはさんで向かいあっている所に、人々の交流や風土に類似点があるに違いない。例えば豊後の間をはじめ宇和島市に佐伯町や佐伯橋があったり、佐賀関から大分市にかけての二一七号線を昔、伊予街道といったり、大正年間、佐伯駅前塩田は伊予人の生業が多かったし、宇和写真館を始め佐伯に住みついている人はずいぶん多い。歴史的に、年代別に両者の移動や影響力はどちらの強いのだろうか。またそれはどんな理由からだろうか。私はそれを今度の旅で少しでも知れたかった。

それで横浜さんや姉さんにいろいろと話しかけてみた。

「日振島は戸数六四戸、小中学生四三名、観光客は年間一万五千・うち大部分が若者の海水浴。藤原純友について見学に来る人はあまり聞かない。島の人は純友についてそれほど関心は持ちません。日振島では大阪との関係が一番、ついで大分県ですがなかでも佐賀関との関係が多いようです。私の兄は、大分県庁に勤めていました。職業安定所の所長をしていましたが、すでに

退職して今鶴崎に住んでいます。」

こう語る兩人の言葉や語感には、宮崎県人や熊本県人よりもずっと大分県人に似ているのではないか。同じ陸つづきの熊本県でも九州山脈を背にした人々よりも豊予海峡や豊後水道の海をへだて、向いあっている伊予人の方に交流も深かったであろうし、類似点も多いのではなからうか。こうした一日や二日の団体での歴史探訪では土地の人とゆっくり話す機会を求めるのが無理である。たゞ漠然と感じとれる程度のものである。研究のためにはまた別の方法をとらねばなるまい。

能登から宇和島港行きは満員であった。船は四時三七分に出帆した。宇和島市の「ときわ食堂」で夕食をとった。別府行き

の二二時の出帆までにはかなりの時間があ

る。みんな三三五五自由行動をとったが、私達は銭湯に入った。

宇和島港を二二時に出帆した。

別府行きの船中では、皆さんぐっすり寝こんでいる。午前四時別府港に着いた。朝霧がかかって人影もなく北欧のある小さな港にでもついたようだった。

### 参考資料

- 愛媛県の歴史散歩 山川出版社
- 和霊宮由来 和霊神社社務所発行
- 日振島と藤原純友 人物往来社
- 各見学所の葉

### 宇和島・日振島を訪ねて

弥生町 古藤田 太

- 竹多き天赦の池をめぐりけり
- 古き茶亭も草繁りあう
- 韓国とイスラムの国の性の神
- 祀る多賀社の庭のざわめき
- 純友の昔たずねんツワブキの道
- 道を登れば広き海見ゆ
- 雨さけて寄りくる人はそれぞれに花を持ちおり日振能登浜